

祝幸田高校俳句甲子園出場決定



6月11日にナディアパーク(名古屋市中区)で開催された、子規・漱石生誕150年記念 第20回俳句甲子園(全国高等学校俳句選手権大会) 東海地区大会(名古屋会場)に出場した幸田高校Cチームが優勝し、8月19日・20日に愛媛県松山市で開催される俳句甲子園への出場を決めました。

幸田高校は俳句甲子園 団体の部で準優勝2回、個人の部で最優秀句に2回選ばれており、俳句甲子園の常連・強豪校です。

試合の形式

1チーム5人で、赤・白チームに分かれて対戦します。

1試合3句勝負

事前に示されている兼題を入れた句を順番に読み上げます。赤チームが発表した句に対して白チームが質疑を行い、質疑の内容に対して赤チームが答えるという形式で3分間行います。その後、攻守交代して同様に実施。質疑応答は挙手した人の中から行司が指名、1回の発言時間は30秒までと決められています。

勝敗の決定方法

両チームの質疑応答終了後、5人の審査員が採点を行い、優れていたと判断したチームの色の旗を挙げ、挙げた旗の本数が多いチームの勝ちとなります。3句での勝負のため、2本先取したチームがその試合の勝者となります。

審査員の採点は、読み上げられた句の





- ①最初に用意してきた俳句をそれぞれ読み上げます。写真の俳句は決勝戦の兼題「ガーベラ」を詠んだ俳句(2句目)
- ②1チーム5人で赤・白チームに分かれて対戦
- ③中央に両チームの俳句が掲示されます。
- ④左が幸田高校チームの俳句。兼題は「陽炎」
- ⑤⑥お互いの俳句に対する質疑応答で審査員に鑑賞力をアピール。写真⑥中央左に座っているのが審査員

創作力、質疑応答による鑑賞力の評価をして、作品点(10点満点)、鑑賞点(2点以内)を付け、合計点が高いチームの色の旗を挙げます(合計点が同じ場合は、作品点の高いチームの旗を挙げる)。





決勝戦

予選ブロックを1位で通過し、迎えた決勝戦。幸田高校Cチームは白。対する赤チームは、昨年、決勝で敗れた名古屋高校。そして、決勝戦の兼題は「ガーベラ」でした。

3本勝負の1本目。幸田高校Cチームは最も自信のある句で勝負しましたが、結果は白2本、赤3本が挙がり赤チームの勝利。続く2本目は白チームが取り返し、1勝1敗の同点に持ち込みました。そして、運命の3本目、白旗が3本挙がり、見事、白チームの勝利。幸田高校Cチームが優勝しました。

- ① 決勝戦、選手入場
- ② 試合前、両チームで円陣を組み、お互いの健闘を誓う選手たち。写真手前の幸田高校Cチームは、おそろいのオリジナルポロシャツで大会に臨んでいました。
- ③ 1対1で迎えた決勝戦3本目、白旗が3本挙がり幸田高校Cチームの勝利が決定した瞬間
- ④⑤ 優勝が決まり喜ぶ幸田高校Cチームの選手たち





▲優勝した幸田高校Cチームの皆さん

前列左から、^{でぐち あやか}出口 綾夏さん、^{いはら ちえり}井原 千恵理さん、^{にむら なつき}二村 菜月さん
 後列左から、^{こばやし だいすけ}小林 大輔さん、^{わたなべ いつき}渡邊 一輝さん、^{あおき さやか}青木 彩夏さん

みんなの思いを胸に、全国の舞台へ

幸田高校書道文芸部
 部長 井原 千恵理さん

私たち幸田高校Cチームは全員3年生で、最後の大切な大会で勝つことができ、また仲間たちと俳句を続けることができることになり、とてもうれしいです。

全国大会では、地方大会よりもさらに楽しくディベート（質疑応答）ができるように、私たちの俳句が多くの人に伝わるようにしたいと思っています。そして、地方大会で競い合ったライバルチームや、私たちを応援してくれているほかの部員たちの分まで精いっぱい頑張ってきました。

第20回 俳句甲子園 8月19日（土）・20日（日）愛媛県松山市で開催！

全国23都市30会場で行われた予選を勝ち抜いたチームなど、全国各地から40チームが出場し、俳句の頂点を目指します。頑張れ！幸田高校Cチーム！



上：町民会館つばきホールで行われた公開録画の様子



左：地元チームのメンバーとして出演した、平松京師さん（左）と渡邊一輝さん（右）

NHK Eテレ「俳句王国がゆく」の公開録画が6月17日に町民会館つばきホールで行われました。地元チームのメンバーとして、幸田文化協会所属の俳句「ゆく雲」の平松京師さんと幸田高校の渡邊一輝さんが出演しています。ゲストはものまねタレントの福田彩乃さん、俳優の松田悟志さん。主宰は夏井いつきさん、司会はタレントのU字工事のお二人です。ぜひ、ご覧ください。

8/27(日)
 午後2時30分
 ～3時30分
 放映！

NHK Eテレ「俳句王国がゆく」
 (幸田町収録分) が放映されます